

テーマ 子どもの豊かな学びと育ち：私たちができることってなんだろう

【サブテーマ】

「Ⅰ 子どもと学び」・・・7グループ

子どもを取り巻く学びの環境・場・しくみや子供にとって大切な学びの在り方を考える

「Ⅱ 子どもと安全」・・・2グループ

子どもを取り巻く環境・防災・危機管理能力の育成などを考える

「Ⅲ 子どもの未来と仕事」・・・3グループ

将来の夢を育み、自己実現に向けた学び・場・仕組み作りを考える

趣旨 子どもたちを取り巻く環境は、グローバル化や少子高齢化に伴う地域社会の変化に加え、今回の未曾有の大災害を受け刻々と変化しています。日本社会、そして子どもたち自身がさまざまなストレスにさらされる中、21世紀をひらく子どもたちのために、私たちは今何をすべきでしょうか。

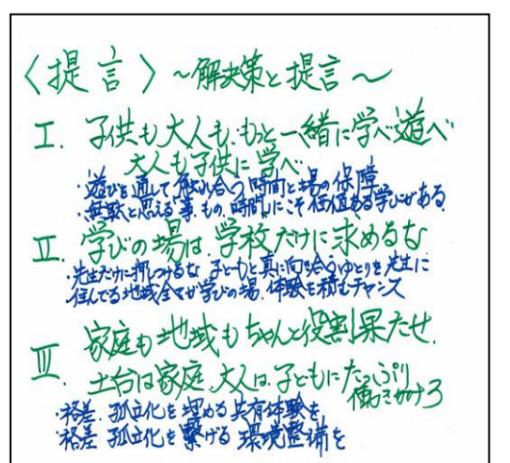
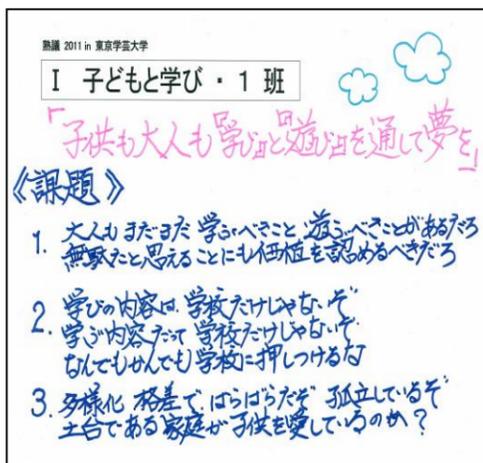
そうした課題を明確にし、みんなで共有し行動していくために「熟議」を開催しました。

「熟議 2011 in 東京学芸大学」の目標は、地域や生活の場に根ざした子どもの豊かな学びや安全・安心な暮らしを大学・学校・地域社会が連携していかに創造し実践できるのか、そして子どもたちや私たち自身がいかなる社会や地域の将来像を目指すのかについて多様な当事者同士で議論することです。今回はとくに3つのサブテーマを中心に、子どもや学校、学びをとりまく問題や情報を共有し、課題の明確化と各自が果たすべき役割について認識・理解を深め、さらには、問題の解決や対応にむけた検討・提言を試み、今後の地域・学校と大学とが連携した学びをめぐるネットワーク構築の基礎づくりを目指します。

- 参加者**
- ・熟議参加者 118名
※地域住民、保護者、企業、学校関係者、自治体職員、大学生、大学教員、文部科学省関係者ほか
 - 9～10名×12グループ
(ファシリテーター24名、記録者12名含む)
 - ・傍聴者 35名
 - ・その他スタッフ等関係者 29名
 - 【合計 182名】



- 当日の流れ**
- 開会宣言
 - 主催者あいさつ
 - 趣旨とテーマ・サブテーマの説明
 - 「熟議」（グループワーク）
 - 前半（60分）
 - 〈休憩〉
 - 後半（60分）
 - まとめ（10分）
 - 全体会（各グループの発表）12グループ
 - 感想・意見
 - 学外からの参加者
 - 文部科学省生涯学習政策局長
 - 東京学芸大学長
 - 閉会あいさつ
 - 閉会

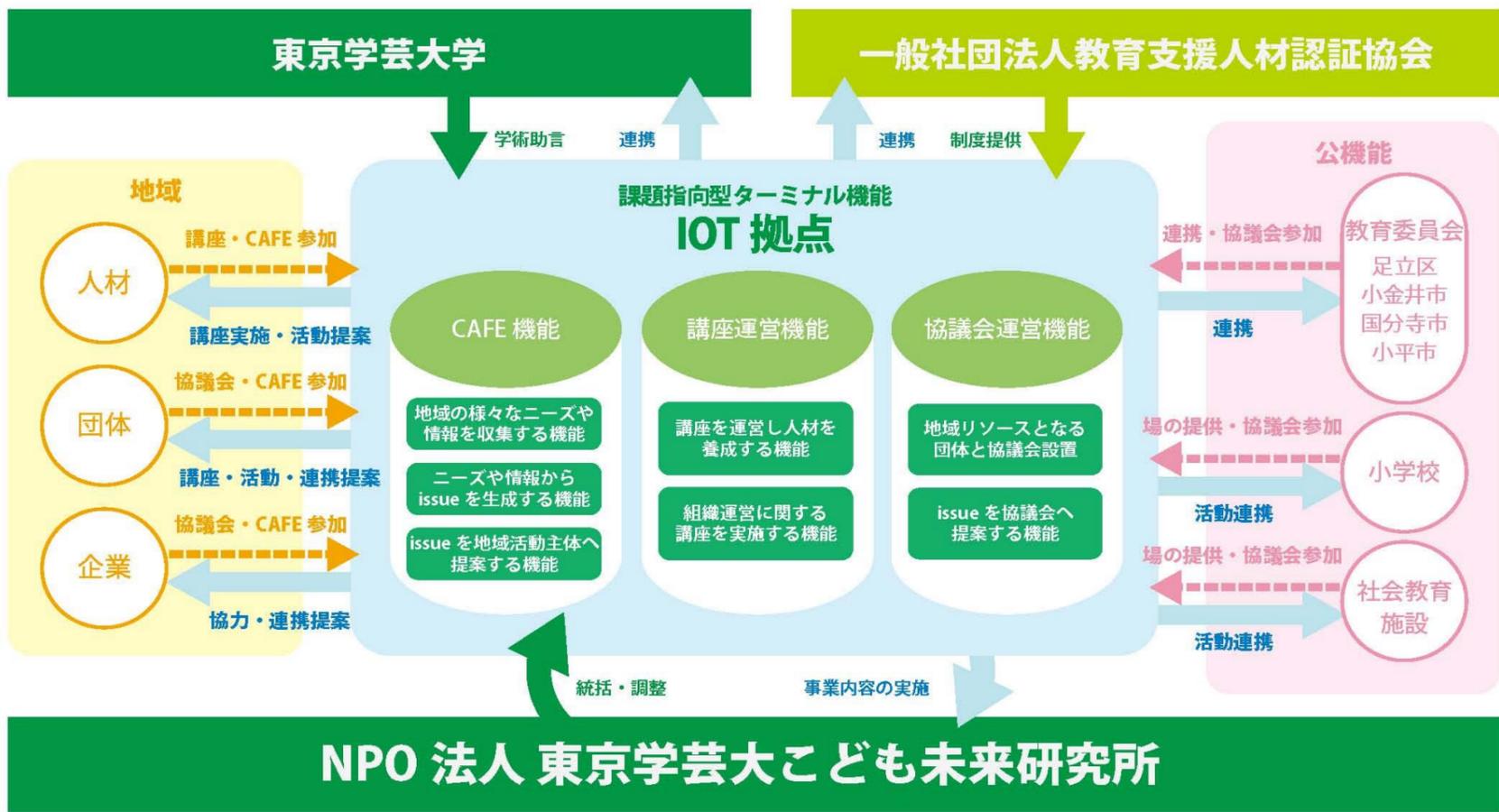


学芸大での熟議開催を終えて【抜粋】 熟議実施委員会委員長 椿 真智子（社会連携推進本部地域連携推進部門長）

本学「熟議」の大目標を、地域や生活の場に根ざした子どもの豊かな学びを大学・学校・地域社会が連携していかに創造し実践できるか、そして私たちはいかなる社会や地域の将来像を目指すのかを、多様な当事者で議論することに設定しました。とくに今回は、子どもや学びに関わる様々な当事者にご参加いただき、問題や情報を共有し、課題の明確化と各自が果たすべき役割について認識・理解を深めることを目指しました。今回のまとめとしては、問題の解決や対応にむけた検討・提言を試み、今後の大学と学校・地域との連携・ネットワークや大学の社会貢献を進めていくための基礎にしたいと考えました。

個人も社会も常に批判や評価の波にあらわれ、困難な課題をいろいろと抱える今、お互いの考えや感性を理解しようとする場や機会がますます重要になってきたと感じます。多くの人と向き合うことは大変なエネルギーを要しストレスもありますが、悪戦苦闘・試行錯誤しながらもきっと何か生まれることをこの「熟議」であらためて認識しました。

認証人材活用のための
「IOT 拠点 (Issue-Oriented Terminal: 課題指向型ターミナル機能)」
 創出プロジェクト
 —実施体制図—



2013. 03. 08 三市 vol.5 パネルディスカッション	
実施日時	3月8日(金) 14:00~16:30
実施場所	国分寺Lホール
参加人数	34名
講師	松田 恵示 (東京学芸大学) 上平 泰博 (NPO 法人ワーカーズコープ) 長津 芳 (小金井第七小学校) 天野 文隆 (小金井市) 季高 一成 (小平市)
概要	研究員からのカフェ講座の取組説明、各回の紹介などを行い、その後、パネルディスカッション形式で、講師の方々が登壇し、それぞれの教育支援に対する取組や、事例などを紹介した。長津先生からは、小学校で行われている、地域の教育人材との取り組みに関して具体的な紹介を行っていただいた。
カフェ概要	最も多い参加者の回であったので、机の数も多く、グループも多くなった。そこで、時間を区切って、席替えを提案することや、グループで話されていたことをマイクから全体に向かって紹介するなどの進行を行い、なるべく多くの参加者同士が交流できるよう工夫した。
参加者の感想	出会いの中に「学び」がある。色々な方の経験をお聞きすることにより、自分の迷いや不安を解消する糸口が見つかります。このような企画を模様していただいております。ありがとうございます。
所感	人数が多いと、交流会としても大いに盛り上がり、カフェスペースも忙しくなるが、会場の壁面に用意した参加者の情報掲示板にも人が集まり、それぞれの活動チラシを持って帰ることや、チラシの主に問い合わせがあるなど、さまざまなポイントで交流が生まれるということが明らかになった。 参加者それぞれが、会話する事のできる人数がある程度限られるため、掲示板や、マイクタイムなどの工夫が必要となる。

2013. 03. 09 足立 vol.5 パネルディスカッション	
実施日時	3月9日(土) 13:30~16:30
実施場所	中央本町地域学習センターレクホール
参加人数	6名
講師	松田 恵示 (東京学芸大学) 木内 菜保子 (東京未来大学)
講座概要	研究員からのカフェ講座の取組説明、各回の紹介などを行い、その後、講師によるコミュニケーションワークを行った。交流のカフェとワークを交互に行い、コミュニケーションが多く図られるよう工夫した。
カフェ概要	カフェの時間は、講師が輪の中に入り、大学と地域との話や、参加者の活動の話などを語りながら交流した。
参加者の感想	やはり何か子どもについての活動をしたいと思って参加しました。様々な活動で活躍されている人たちとお話したかった。子どもとのかかわりについて少しでも学びたいと思いました。大人が子どもに帰ることができて楽しい(ワークの感想) 本当に充実した1日でした。参加者ももっと呼びかけた方がいいと思いました。まるで知らなかった分野のことを学べてとても自分にとって有益だと思いました。
所感	まとめの交流会であったが、交流をより促進するため、コミュニケーションワークを行った。内容は、グループの意思疎通を図るものをメインとして、3種類のプログラムを行った。 参加者が楽しんでいる様子が見られたので、カフェ講座が提供する内容の中に、コミュニケーションを媒介にしたレクリエーションの有効性を確認することができた。 普段の生活では経験することが無くなった、子どものような気分というもの、交流において重要であることが確認された。